

福岡の教育の現状と課題について (参考資料の概要)

「学ぶ意欲等」について

- ・ 小学生(苦手な教科:算数、理科 苦手な観点:思考判断、技能表現処理)
中学生は国語以外の教科、全ての観点で、出題側が期待するレベルに達していない。
(p3 表2-1、2-2)
- ・ 授業が楽しい 中学生になると減少。(p5 図2-3)
- ・ 家庭での学習時間 中学生になると全くしない層と長時間する層の両極が増加。
(p6 図2-4)
- ・ 成績上位にも関わらず授業が楽しくない層は、中学生で増加。
(p7 図2-5、2-6)

「子どもの意識」について

- ・ いわゆる逸脱行為を「悪いとは思わない」子供は高校生で増加。(p8 図3-1)
- ・ 自分に対する自信、自分を肯定する気持ち、他者への信頼感などを持ってない子供の割合は、小学生から中学生になると全項目で増えるが、中学生と高校生の間では、項目により増減傾向は異なる。(p9 図3-2)
- ・ 日本の中学生は、自信度(自尊感情)を示す全ての項目について、他の3国より低い。(p10 図3-3)

「体力」について

- ・ 本県の子供の体力、運動能力は長期的な低下傾向にあり、また、全国平均より劣る項目が多い状況である。(p11 図4-1~p13 図4-16)
- ・ 一方、運動部活動の加入状況は、中学生は横ばい、高校生は増加傾向。
(p13 表4-1、4-2)

「家庭教育及び親の養育態度」について

- ・ 子供に対する過保護、過干渉の親の増加傾向。(p17 図6-1、6-2)
- ・ しつけについて学習しない親(特に父親)の増加。(p18 図6-3)
- ・ しつけについての自信の有無は概ね半々。(p18 図6-4)

「幼児教育」について

- ・ ほとんどの幼稚園において、地域の教育機関や団体、人材を活用した教育を行っている。(p19 表7-2)

「生活習慣」及び「子どもとメディア」について

- ・ 就寝時刻、睡眠時間、朝食摂取、テレビ視聴時間、ゲーム時間
(p15 図5-2~p17 図5-12)
- ・ 携帯電話と有害情報へのアクセス、危険性の認識。(p20 表8-1、8-3
p21 表8-5)